

糸魚川市教育研究会 「英語・外国語活動部」の活動報告

1 一斉研修の機会

年1回、市内の小・中学校の英語・外国語活動の関係者が集まり、公開授業と協議を行っている。協議では、テーマを決めて、参会者全員が最低3回発言できるように司会者が配慮した。

2 今年度の研修内容より

(1) テーマ 「小中の接続」と「小中の連携」から「中1の英語」指導を考える。

(2) 協議会の内容（資料や発言より）

①接続（子供の実態を知り、不安やギャップを取り除く）

- ・子どものギャップは小中の違いから（ぶ厚い教科書、授業スピード、教科担任制、定期テスト、5段階評価、高校受験、宿題の量、テスト範囲の広さ、部活動と家庭学習の両立）
- ・最も「やる気」が高い時期は中1始め、苦手意識が強くなるのは中1後半。
- ・「もっと知りたい」（知的好奇心）は小学生も中学生も変わらない。（子供扱いし過ぎない、自尊感情を無視しない。一人一人へのきめ細かいサポートを怠らない。学習機会を保障する。知識習得型学習と課題解決型学習をバランスよく。ペア・グループ学習を通して生徒相互のよい作用を期待する。）
- ・「書く」ことが始まると、生徒の中に英語嫌いが増えてくる。それに対する手立てとして、「家でアルファベット探しをしてくる」「all, tall」「book, cook, look」のような基本となる単語の読み方、書き方を最初に指導する。

②連携（子どもを次の段階へうまく接続させるために、教師が協力して効果的な指導を行うこと）

- ・どの教室でも、どの教科でも同じように「しつけ」をする。（学習用具、協同・学び合い学習のルールとマナー、相互理解と相互尊重ができる受容型教室づくり）
- ・小学校英語の成果をベースにした授業づくりをする。（指導展開は聞→話→読→書のサイクルで。教科書音読は十分に暗唱を目指す。興味・関心のある題材と楽しい活動を工夫。文字の丁寧な導入と練習時間の確保。授業の基本スタイルを決め、慣れさせる。数單元ごとにまとめのプロジェクト。指導・学習したことを評価やテストに生かす。）
- ・まとめとして（既習内容を繰り返しスパイラルに指導・活用する。今、完璧でなくてもOK、特に「書く」こと。活用することを通して学習内容の定着を図る。発達段階に即した基礎学力育成の方法を工夫する。）

3 成果と課題

<成果>

テーマに沿って参会者全員が活発に発言（実践例、意見、質問、感想、要望等）した。それにより、小・中学校それぞれの英語・外国語活動を理解し、自身の授業改善のための内容や方法について具体的に学ぶことができた研修会であった。

<課題>

英語・外国語活動を含む「言語活動の充実」について、教育活動全体を通して行われることが重要であり、そのための横断的な教育課程の編成について情報交換を含めた協議が必要である。